

縄南道通信



平成30年 5月 2日 発行
2018年度 第2号

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

くすは縄手南校 横小路校舎
日比野 功

東大阪市立義務教育学校くすは縄手南校区教育理念

～縄南道による～二十歳の成人式に

当たり前の行動を当たり前に行うことができる人の育成

「これで満足」は進化を止める！ 目標到達点は積み重ねるもの！

「高い山を登れば、その向こうにあるさらに高い山が見える」、これは楽天イーグルスの野村克也元監督が現役時代、当時、前人未踏の3000試合出場を達成された時の言葉です。目の前にある山に登ろうとすれば努力しなければなりません。「しんどいこと」を続けなければ簡単には目標には到達することができません。少しがんばってしんどくなったら、もう少し楽な方法はないかと迷い、決めた道に進むことをやめて彷徨い続けるだけでは、頂上に到達できずに終わってしまいます。決めた道を登り始めて、しんどくなれば休憩するのも時にはよし、ペースを落とすのも良いでしょう。しかしながら、「しんどいこと」を続けて登り続けなければ、頂上には到達することができません。「しんどいこと」を続ければ、たとえゆっくりでも必ず頂上に到達します。また、目の前の高い山を前にして、挑戦することもなく「自分には無理」と最初から諦めてしまえば、当然、頂上に到達することはできませんし、努力の末に頂上から見える素晴らしい景色も眺めることはできません。つまり、素晴らしいものを知らないまま終わってしまうのです。ところが、目の前の高い山を登りきると、下から眺めていただけでは見えなかった、その山の向こうにあるさらに高い山が見えてきます。当然、「しんどいこと」を続けることができなかつたり、最初から諦めてしまつたり、努力を継続することができなければ、とうてい見えない景色です。努力を重ねて一つの目標を達成すれば、さらにその次の目標が見えてきます。高い山の向こうには、さらに高い山があるのです。「しんどいこと」を継続することができ、努力を重ねることができ、一つの頂上に達することができる力があるのですから、さらに次の努力を積み重ねることはきっとできるはずで、何故ならこの「継続」を支えているのは「人格」だからです。目標を達成できない時、「しんどいこと」を継続できない時には必ず言い訳が存在します。「面白くない」「興味がわからない」「何のためにやるかわからない」「時間がない」「環境が悪い」「他にも良いものがある」等々です。目の前の高い山に登り頂上に到達すれば、頂上からしか見えない素晴らしい景色が見えます。努力を続けた者、「しんどいこと」に挑戦し続けて克服した者にしか味わえない爽快な達成感が味わえます。頂上まで登ってみて、それでも「この他にも素晴らしい景色はある」とか、「他にも意義のあるものもある」と言うのは理解できますが、やらないための、できないための言い訳は進歩の最大の敵です。また、「ここまでで良い」と途中で満足してしまうのも、せっかく努力を続けているのに、とても残念なことです。もったいないような気がします。「しんどいこと」を継続し、頑張れば手の届く適切な目標を設定し、達成すればさらに次の目標を設定するという積み重ねが大切です。不思議なことに「しんどいこと」を継続すれば、努力を続ければ、無理な目標でない限り、最初は無理と書いてい

でも必ず目標は達成できるのです。例えば 100 kgのバーベルを持ち上げるのに、最初から 100kgをいきなり持ち上げることはできません。最初は 5kg かもしれません。10kg かもしれません。中には 30kg からスタートできる人もいるでしょう。5kg や 10kg からスタートしても、毎日、少しずつ継続して積み重ねていけば、40 日～50 日たてば 3kg、5kg とウエイトを増やすことができます。また同じように継続すれば、さらに少しずつウエイトを増やすことができます。1 年たてば、2 年たてば、最初は 5kg や 10kg からスタートした人でも、必ず 30kg、40 kg と自分の目標がどんどん高く設定できるようになります。最初、30kg からスタートした人も 50kg、60kg と自分の目標が進んでいきます。こうして目標を積み重ねていくと、そのうち 70kg、80kg となり、100kg という最初には考えもしなかった高い目標が手の届くところに見えてきます。「できるはずがなかった」ことが、「できるかも知れない」ようになってくるのです。「継続は力なり」とはまさしくこのことです。当然、時間はかかります。努力が必要です。「しんどいこと」を継続しなければなりません。そこには、努力を続けられないための言い訳は必要ありません。30kg くらい持ち上げることができるようになった時、また 50kg くらい持ち上げることができるようになった時に、「これで良い」と努力をやめ、目標設定をやめてしまうのではなく、さらなる高い山に挑戦し続け、さらなる多くの素晴らしい景色を眺めましょう。くすは縄手南校では、今年度は 6 年生の体育授業を後期課程(横小路校舎)の先生と、前期課程(六万寺校舎)の先生と一緒に指導しています。くすは縄手南校の自慢である「集団行動」のレベルをさらに高めたいと考えています。一生懸命努力して、一定の目標が達成されれば、さらに上の学年の目標はより高いものとなります。目指すは「日本一」です。「さらなる進化に挑戦するための人格」は絶対に「日本一」でありたいものです。ぜひ、全員で高い山に登り続けましょう。全員で挑戦するからこそ達成できる目標に挑みましょう。



7 年生の枚岡神社での研修

「アップ」のやり直し ～スポーツテストの場面より～

4 月 27 日(金)に実施されたスポーツテストの最初に、全校生徒が体育館に集まり当日の指示がありました。体育委員長の岡本くん(9 年)が、「気をつけ」の姿勢で前に立ち、その「空気」を感じた全校生徒が話を聴く態勢に入りました。その後、全校生徒で実施した簡単なウォーミングアップがありましたが、「縄南道」にふさわしい「声」ではなく、声の「やり直し」がありました。おそらく一般的な中学生としては悪くはありませんでしたが、「縄南道」が目指すものは「日本一」です。実際、普段の力は十分発揮できたとは言いがたい様子でした。理由は、「いつもと状況が違う」「今日はまあいいか」といった「敗因」の「空気」が勝ってしまったからです。「これではいけない」「こんなのでもいいのかな」と思った人も多くいたはずですが、今回のアップでの「ミス」の原因は何だったのかと振り返り、自身が一番感じていたはずの「これではいけない」という「結果」をどうすれば修正できるのかは、個々がそれぞれわかっているはずですが、目指しているものは「日本一」の「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」です。次の機会を楽しみにしています。

新たにくすは縄手南校横小路校舎に来られた先生、

柏原実生先生(英語)、河井直美先生(スクールカウンセラー)、Christopher Ferazzutti 先生(ALT)、

部活動・コンクール・発表会等表彰

バドミントン部 第 26 回東大阪市中学校総合体育大会

男子シングルス之部 2 位 松井拓磨(現 8 年) 男子ダブルス之部 2 位 宮脇龍翔・戸田賢太(現 8 年)

男子ダブルス之部 3 位 嶋田優輝・山川颯太(現 8 年)、南星来・南星那(現 8 年)

剣道部 平成 30 年大東市剣道連盟春季大会中学生女子団体の部

準優勝(池野梨子 9 年 高居穂ノ佳 9 年 横江柚季 8 年)